

「海江田 健先生を 偲ぶ追悼文」特集

目 次

○海江田 健先生のご略歴	10
海江田 健さんのご逝去を悼む	川畠平一郎
故 海江田 健先生を偲んで	有馬 桂
海江田 健先生を偲んで	東 洋一
海江田 健先生と有床診療所協議会	相良 有一
海江田 健先生を偲んで	浅野 庄三
海江田 健先生に感謝	鹿島 友義
故 海江田 健先生を偲んで	伊東 祐久
故 海江田 健先生に感謝を込めて	大園 清信
『海江田 健先生を偲んで』	猪鹿倉忠彦
海江田先生を偲んで	上ノ町 仁
海江田 健先生を偲んで	東 耕治

海江田 健先生のご略歴

かい え だ
海江田 健先生

生年月日：昭和12年3月15日生まれ



在りし日のお姿

【学歴・職歴】

- 昭和37年3月 長崎大学医学部卒業
昭和38年3月 鹿児島市立病院における実施修練終了
昭和38年4月 鹿児島大学医学部外科学第2講座入局
昭和42年5月 医学博士の学位授与
「脾炎発生に関するリンパ鬱滯の関与」
昭和44年4月 文部教官助手拝命（外科学第2講座）
昭和45年6月 " 辞職
昭和45年7月 鹿児島市立病院 外科医長就任
昭和47年7月 " 退職
昭和47年9月 海江田外科医院 開設（鹿児島市伊敷5丁目18番2号）
平成元年10月 医療法人健成会（ケンセイカイ）へ変更

【役員歴】

- 市医師会理事 昭和59年4月～平成8年3月（6期12年）
市医師会会长 平成10年4月～平成16年3月（6年）
市医師会顧問 平成16年4月～現在
県医師会代議員 昭和63年度～平成15年度（16年）
県医師会代議員会議長 平成10年4月～平成16年1月
県医師会監事 平成16年度～平成21年度

【学校医・園医関係】

- 昭和50年4月～昭和60年3月（10年） 玉里善き牧者幼稚園
昭和50年4月～昭和60年3月（10年） 西伊敷小学校
平成6年4月～平成11年3月（5年） 伊敷台中学校

【表彰および叙勲・褒章】

- 平成13年10月 厚生労働大臣表彰（社会保険支払基金功労）
平成17年4月 鹿児島県公衆衛生協会会长表彰
平成18年10月 日本公衆衛生協会会长表彰
平成20年10月 厚生労働大臣表彰（公衆衛生事業功労）
平成21年11月 日医最高優功賞
平成22年5月 旭日双光章
平成27年11月 厚生労働大臣表彰（労働基準行政関係功労）

海江田健さんのご逝去を悼む

中央区・中洲支部 川畠平一郎

海江田芳春君は伊集院中学校から4年修了で七高（旧制高校：第七高等学校造土館）理科乙類に入学した。戦前の中学校は5年制だったが4年修了で高校を受験できる制度があった。当時ドイツ医学が主流だったので医学部志望の者は第一外国語がドイツ語の理科乙類を希望するが、理乙は一クラスだけ40人だったので、然も4年修了で入学出来るのはごく僅かだった。戦後の学制改革で4修制度も無くなってしまったので、伊集院中の歴史上4修で七高に入学したのは海江田君唯一人だと思う。

小生は鹿児島一中から4修で理乙に入学したので海江田芳春君と同級生になった。彼は身体も大きく水泳の選手でもあったので健康で明るい青年であった。

彼は大阪帝大医学部志望と聞いていたが、理由は存じないが長崎医大を卒業している。卒業後は大阪の病院に勤務し、その病院の娘さん（？）と結婚したらしく（小生の憶測）、帰郷して家業を継承するものと期待していた伊集院町のお父上は立腹し勘当同様になった

らしく、彼は妻の家の婿養子となり姓も北野に代わり、大阪で産婦人科を開業していた。74歳で亡くなつたが伊集院の海江田家墓地には埋葬して貰えなかつたらしい。

海江田 健さんは芳春君の実弟で敬慕していた兄貴を不憫に思っていたが、お父上のご逝去後亡き兄上の遺骨を分骨して海江田家の墓に埋葬されたという。友人の波乱に満ちた余り長くない人生に胸の詰まる思いがあり、弟さんの心温まる兄上への思慕の念に感動する。

健さんは医師会の集まりなどでは真先に小生の所に挨拶に見え、兄上の思い出を語り合うのが常であった。彼は小生より13年も若いのに何故そんなに早く兄上の黄泉の国に逝かれたのだろう。

小生12月には満97歳になるが、友人で残っているのはごく僅かになつた。でも若い人に先立たれるのがとても辛い。

海江田 健さんのご冥福を心から祈ります。

合掌

故 海江田健先生を偲んで

中央区・中央支部 有馬 桂
(有馬内科クリニック)

盟友であった海江田 健先生が亡くなられてもう2カ月になろうとしています。今でも夢ではないかと思う時があります。その頃、私も体調を崩して入院中でした。東 洋一先生から病室へ電話を頂いた時はええ？と驚い

てあの言葉が出ませんでした。4月17日軽快退院して、今、細々と診療に従事しています。健先生には大変お世話になりました。今、市医師会の理事になりたての頃を思い出しています。昭和59年4月、再選された市医師会

の久留克己会長のもと新執行部がスタート、新理事として東 洋一先生、海江田 健先生と有馬 桂が就任しました。東先生は私より1歳上、海江田先生は2歳下で一番元気がありました。理事会の席は出口近くで電灯も薄暗らい中、海江田先生が「議長」とよく発言されているの思い出します。海江田先生の当時の担当は、看専校高等課程・専門課程でした。朝から教務主任からよく電話が来ると嘆いておられました。私は、副担当として、関西方面の修学旅行に随行した時は宝塚へお供することもありました。往復夜行列車ですから、2班に別れて帰る時もありました。その後、保険、経理、検査センター、庶務等も担当されました。昭和62年秋より新検査システムの検討が開始され、昭和63年3月から全国各地の大学や検査施設を委員が手分けして視察、最後に平成2年、日立が開発した自動解析装置が秋田大学付属病院で稼働しているとの情報を得、急遽、太原会長、海江田理事、小園部長、中田課長と私と5人で秋田へ飛び機種が決まり、世界で初めての“全自動臨床検査システム”が見事に完成しました。海江田先生は理事を昭和59年4月から平成8年3月まで6期12年お勤めになりました。そして2年後の平成10年4月、松岡前会長のご勇退に伴い、新制鹿児島市医師会の第10代会長にご就任されました。海江田会長は、先輩の方々から教えられた「会員の和を保つこと、業務の執行にあたって、判断に困った時は迷わず会員のためになる方を選ぶこと」をモットーにやっておられました。6年間の間にいろんな業績を挙げられました。特に、新しく始まった老人保健施設の会費徴収問題、医師会病院の地域医療支援病院指定と機能拡大に伴う増改築、小児救急医療拠点病院への指定獲得、区制導入、看護専門学校の創立50周年記念祝典、検

査センターの新臨床検査システム構築が印象に残っています。また、平成12年4月にスタートした介護保険への対応、夜間急病センターの新築移転と公設民営化の決定も先生が尽力されました。平成12年1月発覚した検査センター職員の横領事件は、海江田会長が職員の配置転換を行って明るみになったのであり、会長が第1発見者であり、会長の功績と思いました。また、長年、鹿児島県有床診療所協議会の会長もお務めになり、県内の有床診療所の経営安定に尽力されました。以前は市医師会理事会では、出会手当をプールして年1回ゴールデンウイーク等に親睦旅行を行っていました。北海道、東北地方、佐渡などが記憶に残っています。海江田先生はいつもご夫妻で参加していました。またロータリークラブにも入会していました。平成21年9月、私共が入会していた鹿児島ロータリークラブの姉妹クラブである山形県の酒田ロータリークラブの創立50周年記念祝典には、当時クラブ会長であった私の都合に合わせて一緒に行って頂きました。とても感激したこと覚えてあります。海江田先生とは、市医師会理事就任後37年の長きにわたり公私ともに大変お世話になりました。ただただ感謝のほかありません。先生が創立された海江田外科はご子息の衛先生が立派に引き継がれ地域医療に取り組んでおられます。先生のこれまでの地域医療そして市医師会へのご功績に深甚の敬意を表し、永年に亘りご指導賜りましたことに感謝申し上げ、心からご冥福をお祈りいたします。海江田 健先生、どうぞ安らかにお眠りください。

海江田 健先生を偲んで

東区・郡元支部 東 洋一
(東内科医院)

海江田先生は、長崎大学医学部を昭和37年3月に卒業され、同年4月鹿児島市立病院にて1年間実施修練を受けられました。その後、鹿児島大学第二外科（秋田八年）に入局され、大学院を卒業、学位を授与され昭和45年からは鹿児島市立病院にて上高原先生のもとで研鑽、昭和47年現在の伊敷に外科をご開業されました。

その後、地域住民のため介護施設等をオープンされ、手広く身を粉にして献身しておられました。開業13年目の昭和59年4月に海江田先生を始め有馬先生と私と三人一緒に、医師会役員を引き受けすることになりました。三人寄れば文殊の知恵、毛利元就の三本の矢ではありませんが、本当に心強い限りで、理事会では再三助言頂いた事を憶えています。

厳しい時代でしたが、看護学校主担当理事として3期6年務められ、不肖、その下で私は副担当を務めさせて頂きましたが、会員の為の看護学校を一生懸命、当時、城ヶ崎教務主任と中原教務主任と共に心血を注がれましたが、それだけに最近の医療情勢についていけず、整理されたことに対する残念がっておられました。

多方面に亘りご活躍され、有床診療所設立協議会の活動等、九州を代表する有診の役員として活躍されました。その功績等が認められて、平成13年厚生労働大臣表彰（社会保険診療報酬支払基金関係功労）、平成18年日本公衆衛生協会長表彰、平成20年厚生労働大臣表彰（公衆衛生事業功労）、平成21年日本医師会最高優功賞表彰、平成22年叙勲（旭日双



一休会旅行 (2003年11月 伊豆)

光章）、平成28年厚生労働大臣表彰（労働基準行政関係功労）等を受賞されておられます。

会長になられてからは、これから有床診療所の有り方では病院も厳しいがそれ以上に有診を改革せねば厳しくなる事を推測され、有診のトップとして全国に奮闘、現在の有診の礎を築かれました。これには会員には見えない内助の功として奥様の存在は見逃せません。

また、お互いの心の休み所『一休会』があります。記録に残されていない為、詳細は不詳ですが、この『一休会』は、役員達が理事会が終わるのは通常22時頃で、予算決算時は午前0時を過ぎることもあり、奥さん方に苦労を掛けている為、慰労を兼ね、年に1回夫婦同伴の旅行を行っています。2泊3日で、日本の名所を巡る旅で、これが役員の唯一の息抜きでした。北海道から韓国までの美しい所を訪ねました。上高地（帝国ホテル）、三重（志摩観光ホテル）、そして北海道の雪祭り等々、思い出が一杯ありますが（写真は2003年11月

伊豆を旅行した時の写真です。), 海江田先生はビデオ撮影がお好きで、連日ビデオとカメラを持参されて私共を撮影して下さり、帰鹿後は理事会時にテープや写真を下さったりして、本当に心優しい先生でした。時々、それを見るのを楽しみにしてあります。先日も改めて旅先の写真やビデオを拝見した所でした。

海江田先生は、日常の往診に追われる中、息子（長男）衛先生が毎週手伝いに来てくれる様になった事を非常に喜んでおられました。また先生はゴルフが好きで、年に1回鹿児島市のゴルフ大会が開かれますが、私も理事4期16年間勤める中で、後半より市の大会の競技委員長を務めております。第31回大会平

成18年4月22日(日)知覧カントリークラブで、会長をお辞めになって2年目の市の大会にご出席頂きました。当日は市の助役大平和久氏、谷山の児玉俊哉先生と4人一緒にアウト一番スタートで始まりましたが、私がイン16番でホールインワンをした時、非常に喜んでくれたのが印象的で、その後は何回も南日本新聞を見る度に、電話で私の入賞を喜んで頂いた事が心に残っております。本当に優しい先生でした。

先生への感謝の誠を捧げ、心よりご冥福をお祈り致します。どうぞ安らかにお眠りください。

合掌

海江田健先生と有床診療所協議会

たにもと耳鼻咽喉科外科クリニック 相良 有一
鹿児島県有床診療所協議会 監事



海江田 健先生は令和3年4月13日に急逝されました。びっくりしました。

先生は永年鹿児島市医師会長として会員をとりまとめ、経営のこと、会員福祉の面でも大変なご功績を残されました。また、平成6年には鹿児島市医師会有床診療所協議会（市有床診）を立ち上げ、市医師会長であった平成14年2月には鹿児島県有床診療所協議会（県有床診）も立ち上げ、同時に全国有床

診療所連絡協議会（全国有床診）にも加入しています。

鹿児島市医師会長は平成10年4月から6年の永きにわたり務められ、その前に数年の理事も務め、会員のためにご苦労いただきました。この時期の事は多くの先生方が述べられると思いますので、私は有床診療所協議会の立場で海江田先生のご活躍を述べたいと思います。

私も県有床診の立ち上げの時からの会員ですので、海江田先生のご活躍はすぐ近くでみておりました。

鹿児島県の有床診療所連絡協議会は福岡県についてメンバーが多く全国有床診でも発言力があり、海江田先生は早い時期から副会長の一人として活躍しておられました。

昭和63年福岡県で第1回目の全国有床診の

会が開催されました。平成19年には第20回の有床診総会が鹿児島で開催されました。平成19年7月28日～29日城山観光ホテルで全国より約450名の方が参加していただきました。総会の会長として県医師会の米盛学先生にしていただきましたが、約1年前から準備委員会を立ち上げ海江田先生を中心に12～13人の先生方が準備にかかりました。第20回全国有床診連絡協議会総会の概略を記します。

メインテーマは「新たなステージに立つ有床診～地域に密着した医療と介護」としました。

7月29日午後総会議事が行われ、冒頭海江田会長が会長挨拶を行いました。議事の最後に次期開催県の青森県医師会会長のあいさつがありました。その後、当時の日本医師会会長の唐沢祥人先生の特別講演「少子高齢社会を支える国民医療～地域医療提供体制の将来像～」があった。同日夕方城山観光ホテルのロイヤルガーデンで約400人の懇親会がおこなわれました。アトラクションの島唄を設定しました。

第2日目は午前9時から特別講演2として全国有床診広報担当理事の大岩俊夫先生より「20年の歩み」という題でお話がありました。そのあとシンポジウム「医療制度改革後の有床診療所の抱える問題点とその対策」というテーマで7人の先生方に話していただきました。活発な討論がありました。午後は講演1「今後の医療提供体制について」厚生労働省医政局総務課長 二川一男氏にはなしていただき、つづいて講演2として「有床診療所における医療と介護」という題で日本医師会全国有床診療所担当理事鈴木満先生に、海江田会長の座長のもとに話していただきました。

海江田会長の統括のもと、多くの方々が有意義な話ををしていただき盛り上がった総会に

なったと記憶しています。

海江田先生は全国有床診の副会長として、毎年全国大会には参加したおられましたが、第17回のころから、家内連れて北海道、広島、千葉と私も一緒に参加しました。海江田先生は副会長としての立場もあったでしょうが、非常に気配りしておられ、全国的にも名前を知られておりました。

昨年10月頃でしたか、鹿児島有床診の理事会があった時、海江田先生が欠席しておられ不審に思っておりました。その後1カ月くらいして、偶然先生と電話で話す機会があり、非常に元気そうな声だったので安心していました。ところが4月13日に先生が亡くなられたと連絡が入り、信じられませんでした。

鹿児島県の有床診にとっても全国有床診にとっても大きな支えが無くなり、喪失感は計り知れぬものがあります。

とにかく生前一人で外科クリニックを経営しながら、鹿児島市医師会会長を平成10年4月から平成16年3月まで6年間の長きにわたり務められ、かつ平成14年2月からは県有床診会長として、また全国有床診の副会長の一人として中央との折衝にも参加されるなど多忙な気の休まる間のない生活を送ってこられたと想像します。これからはゆっくりお休みください。ご冥福をお祈り申し上げます。

海江田健先生を偲んで

中央区・中央支部 浅野 庄三

海江田先生と知り合いになったのは、平成4年私が市医師会理事に選出されてからである。先生は既に理事4期を経験されていて、有馬 桂先生、東 洋一先生らと共に中心的存在で活躍されていた。理事になって初めての忘年会の席で、先生の叔父上は海江田式額帯鏡を考案された耳鼻科医で、先生も耳鼻科は選択肢だったと話されて、外科系医師の性格で何となく気が合い、以来親しくお話するようになった。此の頃の理事会は太原会長、松岡、尾辻両副会長皆さん酒好きで、出張で地方に行った時は、その地方の地酒を買って帰り、忘年会や8月の納涼会で披露していた。私も帰省した時土地の酒を買って帰り、忘年会で飲んでもらったところ、海江田先生が“あれはうまかった、空瓶で良いから呉れ”と言われ、以後時々お土産にしていた。一休会や、出張時など気兼ねなくお話しあ付き合い戴いた。

平成8年3月理事を退任されたが、“今度の役員選挙で会長に立候補したい、協力してくれ”と言われた。“会長は孤独ですよ、孤独に耐えられますか”と質問すると、“耐えられる”と言われ、“じゃあ応援しよう”という話になった。平成10年4月会長に就任された。副会長の有馬 桂先生とは外科と内科の素晴らしいコンビで、丁度三国志の劉備玄徳と諸葛孔明の関係のように思えた。

平成12年1月検査センターの横領事件が発覚した。検査センター事務長に異動した土橋一正氏が見つけたもので、大問題になり、会長が会員に謝罪する事態になった。これは会長が行った事務局の人事異動の成果で、私は海江田会長の功績と思っている。また事務局長に下船昭美氏を当て、生え抜きの職員を事務局長に昇格させる先例を作ったのも海江田会長であった。

平成14年4月から私は庶務担当を仰せつかり、7月に海江田会長の下、九州地区医師会

立共同利用施設連絡協議会を鹿児島市医師会が担当し城山観光ホテルで開催した。此のころは医師会病院、検査センター等諸事業も順調で、他県の医師会からうらやましがれていた。平成15年8月医師会病院増築を竣工させ、検査センターの充実を図られるなど多くの業績を残された。会長職の孤独に耐え、判断力、決断力に優れ、ブルドーザーのような馬力と行動力のある方であった。また情報収集力にも長けていて、運転免許更新時の高齢者認知機能検査についての警察庁ホームページを先生から教えて頂いた。おかげで100点取れた。

平成16年3月海江田会長、有馬副会長、私はそろって役員を退任した。海江田先生から協力のお礼と言って有馬先生と共にご馳走になった。その後有馬先生は監事として再び役員に入られたので、元副会長今村正人先生も加わり時々集まって食事をしながら雑談し医師会の情報も得ていた。

令和2年4月、食事会はどうかと、お伺いしたが、新型コロナ感染が騒がれ、会食は自粛ムードとなって延期した。この時奥様から実は肺がんが見つかり鹿児島医療センターで治療を受けると知らされた。もともと頑健な体格をしておられ、年寄りの癌は進行が遅いと聞いていたので大したことではないだろうと軽く考えていた。9月頃だったか電話すると、“調子悪い何とかしてよ”と言われたがいつもの軽口と思っていた。今年3月25日にケイタイのメールで体調をお伺いしたが返事は戴けなかった。そうして4月13日突然の訃報に驚いた。コロナ禍の中お見舞いにも行けず、いざれそのうちお逢いできると思っていたが、令和2年1月22日にお逢いしたのが最後となつた。亡くなられたことが未だに信じられない。同じ丑年生まれの親しい友を失い残念である。ただただご冥福を祈るばかりである。 合掌

海江田健先生に感謝

東区・紫南支部 鹿島 友義

当時いろいろと事情はあったが、市医師会役員の経験がない私が会長に就任することになり、早速、海江田 健先生のところにもご挨拶に伺った。その折、海江田先生はやさしく「困った時にはいつでも相談に来てくださいね」と言われた。良識ある采配で鹿児島市医師会の歴史を築いてこられた太原春雄先生と海江田 健先生のお二人の有能な先生方が、私の在任中を通して矍鑠として鹿児島にご健在だったことがいかに心強かったかをいまさらながら感謝申し上げている。

市医師会の過去の役員名簿を拝見すると、海江田先生は役員12年、久留先生、太原先生、松岡先生がたの会長時代に理事を務められ、松岡会長の後を追って会長に選ばれ、以後3期6年にわたって鹿児島市医師会を率いてくださった。長崎大学医学部のご卒業、鹿児島大学の第2外科に入局、市立病院勤務を経て伊敷で開業されている。先生は消化器グループに所属しておられたためか、大学医局時代には診療や共同の研究会で個人的にお付き合いをいただく機会はほとんどなかつたようと思う。思い出のほとんどは私が会長になって以後の事である。

海江田先生は理事時代から有床診療所問題に強い関心を寄せられ、日医や九医連の集会で多くの発言をされておられたご様子は医師会報等で気づいていた。日本特有の有床診療所はわが国の医療文化になじんだ、大切な施設であり、地域住民のためにも医師のためにも残すべき制度であると熱心に有床診療所問題に取り組んでおられた。

「鹿児島市医報」のバックナンバーで海江田先生の会長としてのご苦労を振りかえって見

た。先生のご在任中でおそらく最も苦労された（いやな仕事だったと思う）のは検査センターの事件であろう。後始末的なお仕事であったが、その後の検査センターの経営に大きな傷を残さずに処理できたことは不幸中の幸いであった。

個人的には私が当時在職していた南九州中央病院（現鹿児島医療センター）の事案がある。通信病院との統合を目指して南九州中央病院としては増床を計画したが、地域医師会の同意が必要であった。特に南九州中央病院は伊敷の鹿児島病院を現在地に移動して機能を変換させる時から地域との協力をかけしており、本省の意向も地域の医師会の賛同が条件であった。病院の機能向上のためにはどうしても増床したかったが、公的病院の病床数がすでに過多であるとの意見が強く、病院として医師会の動向が強く危惧された。私の聞き及ぶところによると、市医師会の代議員会で賛否同数、議長を務められた海江田会長のご厚意で辛うじて市医師会の同意が得られたと聞いている。この増床によって現在の国立病院機構鹿児島医療センターは鹿児島県民のためにも地域の開業会員のためにも役に立つ病院として機能している。県、市医師会、そして同意決定に大きな役割を果たしていただいた海江田先生に感謝申し上げたい。

海江田先生で忘れられないエピソードを付け加えて私の海江田先生の思い出を終わりたい。会長、元会長として多くの会合の締めのご挨拶、万歳三唱の音頭をとられる機会が多かったが、まず初めに「手を挙げる時には、『気を付け』の姿勢からそのまま手のひらが内側を向くように両腕を挙げください。手の

ひらが前を向くと、"参った"になります」と言われたことを懐かしく思い出している。

医院はすでにお子さんが継承され、先生が御尽力された鹿児島市医師会も上ノ町会長をはじめとする有能な役員に恵まれ、地域社会

のため強力に機能している。海江田先生とはすでに幽冥界を異にし、直接お会いすることはできないが、今もきっと心強く思っておられる事と思う。

故 海江田 健 先 生 を 偲 ん で



4月13日朝、海江田 健先生の訃報に接し、ただただ吃驚するしかありませんでした。

翌日のお通夜では、先生の前で、これまで多くの事を教えて頂いた事やいつも温かく声をかけて下さった事に感謝してご冥福を祈りたいと願っていたのですが、急遽入院することになり、参列出来ず心残りでなりません。

海江田先生との思い出は数え切れないほどあります。平成10年4月、私が理事に就任することが決まった時、先生は「診療を犠牲にする事もあり、失う事もあるが、得る事の方が多いので頑張れ」、「理事は皆平等である。臆することなく必ず意見を述べること」とエールを送って下さいました。確かに診療へのしわ寄せも多々ありましたが、それまで耳鼻咽喉科の狭い世界にだけ向いていた目が、医師会活動、医政の事や他科の状況、さらには鹿児島市や県の医療状況も分かるようになり、また歯科医師会や薬剤師会の先生とも交流ができ、得るものが多く、視野も広くなり、大きな財産になりました。

海江田先生は会長に就任される前、昭和59

西区・武岡支部
(耳鼻咽喉科田上クリニック) 伊東 祐久

年4月から平成8年3月迄、鹿児島市医師会の理事をされました。昭和59年4月から平成2年3月迄、鹿児島市医師会看護専門学校を担当され、また会長に就任してからは校長を務められました。そういう関係もあり、とりわけ看護専門学校に情熱を注がれていたのは周知の事実でした。

私は平成10・11年度専門課程の副担当、平成12年度から15年度まで高等課程の主担当をさせて頂きましたが、海江田先生は、良く看護学校の話を、例えば教務主任から毎朝必ず学生の報告があったとか、修学旅行は楽しかったなど色々楽しそうに話されており、看護学校への深い愛情と情熱を感じられ、私も見習わねばと思いました。

学校の運営は校納金と県や日医・県医からの補助金で賄われていますが、それだけでは不十分で、特に平成14年度からは毎年医師会一般会計から数千万円が繰り入れられ、運営は苦しい状況にあり、また時代の流れで高等課程の受験者は減少の傾向にありました。このような中、全国的に看護師も充足されないと厚労省も言っており、医師会が看護師を養成する時代は終わっているので廃止すべきという声が会員の中から上がってきました。

市医師会の看護専門学校は昭和28年准看護師養成校として認可され、平成14年には創立50周年を迎え、盛大な式典が催され、記念誌

も作られました。卒業生は1万人に及び、地域医療の大きな戦力になっていました。海江田先生は、このような歴史からも、医師会が看護学校を運営するのは責務であり、会員が一人でも望むかぎり看護学校は存続させると決意されており、私も同じ考え方のもと、学校存続に懸命の努力を致しました。

しかしながら平成17年6月の代議員会で看護専門学校の廃止が議決され、残念ながら平成23年3月、最後の卒業生を送り出し、看護専門学校の幕は閉じられました。海江田先生

にはさぞかし断腸の思いだったと思います。同じ思いの先生も多かったと思います。

運命とは不思議なもので、その後私は平成27年4月より県内の地域医療に貢献する看護師を育てるという市医師会看護専門学校の目的を受け継いだ赤塚学園看護専門学校の校長をしており、ことある毎に海江田先生の学校へ注いだ愛情と情熱を思い出しています。

改めて先生から頂いたご厚情に感謝し、心からご冥福をお祈り致します。合掌

故 海江田健先生に感謝を込めて

谷山支部・鹿児島県議会議員 大園 清信

海江田 健先生の突然のご訃報に言葉が見つかりません。昨年体調を崩しておられるとお話を伺ってはおりましたが、新型コロナの下、お見舞いにも行けず突然のお別れになつたことは大変悔やまれ、痛惜の念に堪えません。

先生との出会いは、私が平成11年4月の県議会議員選挙に出馬するときで、当時先生は鹿児島市医師会会長の要職に就いておられ、「諸事情で後援会長を引き受けることはできないが応援する」旨の温かいお言葉をいただきました。初挑戦では270票差で落選しましたが、2年後の補欠選挙では海江田先生直々に後援会長に就任され、先頭に立って医師会あげて応援していただき、当選を果たすことが出来ました。そして本年6月の県議会定例会において、20年の永年勤続議員表彰を授与されました。

この20年間、先生は一貫して「僕は大園君を初めて当選させた後援会長で、君の議員としての言動はいつでも信じている。しっかり県民のために頑張れ」とずっと励ましてくだ

さいました。そして選挙の度毎に個人演説会には弁士として出席していただき、温かい励ましのお言葉をくださいました。先生の温厚で誠実なお人柄に、改めて感謝の二文字しか浮かびません。

私の人生の中で、「人間 海江田 健先生」との出会いは、この上なく貴重な財産となっています。先生のおかげで長く県議会議員を続けることができ、県内の本土と奄美大島に2機の「ドクターへり」を導入、県立大島病院には全国で離島初となる「救命救急センター」を整備、また障害を持つ子どもたちの「県こども総合療育センター」を県立整肢園跡に整備することなど多くの実績を上げることが出来ました。県議会議員として、県の保健・医療・介護・福祉に少なからず貢献できたものと思っています。これもひとえに海江田先生の力強い後押しがあったものと先生のご厚情に深く感謝申し上げます。先生、ありがとうございました。安らかなるご冥福を心よりお祈り申し上げます。

『海江田 健先生を偲んで』

鹿児島市医師会 顧問 猪鹿倉忠彦

故 海江田 健先生のご逝去に際し、衷心より哀悼の意を捧げますとともに、謹んでお悔やみ申し上げます。

令和3年4月13日、享年85歳の先生の訃報に接し、ありし日の先生の面影が彷彿として蘇り、只々深い哀惜の念に堪えません。

令和2年早々にクルーズ船を皮切りに新型コロナウイルスが日本へもたらされたことは記憶に新しいですが、同年1月6日の鹿児島市医師会年始会、そして2月12日の退任理事懇談会は例年通り開催され、海江田先生は乾杯の挨拶や理事への激励のお話などなされ、また、懇親会では先生と隣席で、顧問の先輩としても色々ご指導頂きました。一方、地域医療では、初夏の頃までは患者さんのご紹介を度々頂き、お電話などでやり取りしたことが、つい先日のように感じられます。それから1年も経たずということで、日時の経過のあまりの早さと移り変わりの大きさに驚愕するばかりです。

海江田 健先生は、医師会執行部はもちろん、地域医療でも大先輩でございます。昭和59年4月から平成16年3月まで、鹿児島市医師会の理事ならびに会長として、通算9期18年もの長きにわたり、鹿児島市の地域医療を誠意導いてこられました。また、旭日双光章や日医最高優功賞はじめ、幾多のご功績を称えられ、多くの立派な受賞を受けていらっしゃいます。

海江田先生の思い出を紐解くべく、過去の手帳を捲ってみました。

平成14年暮れに留学から帰国した私は、それまでの大学医局から地域医療へ移行し、鹿児島市医師会に入会しました。当時は、市医師会への新規入会員のオリエンテーションを



平成29年12月1日 健生会 海江田外科開設45周年忘年会にて～海江田外科45周年を記念してご挨拶をさせて頂いた直後の先生とのツーショットです。

旧医師会館2階ホールで行っており、私は平成15年3月6日に出席いたしました。その際に、会長でいらした海江田先生は自分から新入会員の席を回り、一人一人に声をかけながら日本医師会の会員章を手渡しになられましたことが、ありありと思い出されます。とても緊張して会員章を拝受した私でしたが、『地域医療の連携と医師会との関りを大切すること、何よりも、市医師会員としての誇りと自覚をもつこと』を旨とする訓示を述べられました。

その後、私は平成16年4月から市医師会理事に就かせて頂きましたが、海江田先生は会長をご退任され鹿児島市医師会顧問になられており、医師会の理事として職務の実働を共



平成15年3月6日、海江田会長から授受した日医会員章～上着の胸に、医師会の一員としての誇りをもって、日々着けてあります。

にしたことはございませんが、顧問というお立場から、機会あるごとにご指導を賜りました。「会員のための医師会として、胸を張って堂々と理事職を全うせよ」ということを常々話されておられました。私が理事職の期間は、重要案件などは海江田顧問に色々と状況を説明に上がり、お伺いを立てたこともございましたが、それだけ医師会の顧問として父親的存在だったと思います。

時を経て私が会長職に就いた際、会長としての心得をご教示頂きました。「鹿児島市医師会の会長は、鹿児島市医師会の会員のためを第一にしなさい」「会務で迷ったら鹿児島市医師会の会員のためを考えなさい」と言われ、胸に刻んだ次第でした。また、海江田先生が会長時代の会員章配布の印象がとても強く、せめて自分が会長時代の共に執行する理事の先生方へは、医師会員章を胸に付けて頂き、理事としての誇りと自信をもって執行に臨んでもらいたいという気持ちを込めて、配布させて頂きました。海江田先生も、それをとても喜ばれ、おほめ頂いたことが懐かしい

思い出です。

『健成会 海江田外科開設45周年忘年会 平成29年12月1日金曜日』

この日はとても忙しい1日で、市医師会会长としてタラ看護学校の灯火の儀への出席、県医代議員懇談会と各種受賞祝賀会、さらに自院の忘年会など、予定が朝から夜まで続いている日でした。数日前に海江田先生から直々にお手紙とお電話を頂き、健成会 海江田外科開設45周年忘年会で、市医師会会长として海江田外科を支えてきた職員の方へ挨拶して花を添えてもらえないかとお願いされました。記念すべき日へのお招きでしたので、予定が詰まっていたが、喜んで参加させて頂きますとお返事申し上げました。何とか先のスケジュールの帳尻を合わせ、会場のパレスインへ中盤の8時過ぎに馳せ参じ、宴たけなわの中で挨拶を申し上げました。職員の皆様方は、日ごろの現場での患者さんへの接し方はもちろん、とてもアットホームな雰囲気で、しかし海江田先生と奥様を中心に、しっかりと信頼で絆がっている印象でした。45年という半世紀に近い歴史の中で培われてきた、まさに地域の“かかりつけ医”であり、街の診療所の鏡であると思い、その話を挨拶に代えさせて頂きました。先生奥様共々たいへん感謝されたのは恐縮至極で身に余る想いでした。今後は、先生の御薫陶を受けられたご長男の海江田 衛先生が、しっかりと受け継いでいかれることと祈念申し上げます。私も微力ながら、先生から医師会の教えを引き継いだ顧問の後輩として、鹿児島市医師会を支え見守ってまいります。

偲びの結びに、先生の永年にわたる地域医療・保健活動等そして医師会へのご尽力に、あらためて深甚の敬意を表し、心からご冥福をお祈り申し上げます。

海江田 健先生、どうぞ安らかにお眠りください。

海江田先生を偲んで

鹿児島市医師会 会長 上ノ町 仁

私が海江田先生に最初にお会いしたのは、平成22年に鹿児島市医師会の理事に初めて選出され間もなくの、新任退任理事懇談会の時だったと記憶しております。私が医師会活動の右も左も分からぬ時期で、元会長で顧問として当時の日本医師会の状況から当会の現状、そして問題点と解決法等流暢に述べられ、私はすごい組織の一員になったんだと、身が引き締まる想いでした。宴もたけなわとなり、緊張しながら海江田先生のところへご挨拶に伺い、いろいろな会話の中で「1~2期は勉強の時期、3期目からやっと見えてくるものがある」とおっしゃられたのを鮮明に覚えています。まさしくその通りでありますと、新任理事の頃はまず医師会とはどんな組織か、何をしているのか、私はどう動けばいいのかを、顧問や会長・副会長・先輩理事から必死に学びました。海江田先生は、私の理事としての心構えや方向性を最初に導いていただいた方であり、感謝の気持ちでいっぱいでした。

また、先生は九州厚生局の個別指導の指導官もされておられました。私が鹿児島市医師会の医療保険担当理事として個別指導に立ち会った際、指導官として出席され、該当する医療機関の長に厳として的確な指導をされておられました。その指導の根底には「この医療機関を更によくするにはどう指導すればいいのだろう?」という優しさがあふれていたのを思い出します。指導の最後には「よく頑張っておられますね。本日の指導を活かしてさらにご活躍ください」と締めくくられ、名指導官ぶりを遺憾なく発揮されておられました。

私も5期理事を務めさせていただき、平成

30年に会長に就任致しました。その際にも懇談会の席で「会長は孤独であり大変な立場だが、『会員のために』を念頭に頑張ってください。そして何かあったらなんでも相談しなさい」とお声をかけていただき、その優しいご発言ができるのは、ご自身が第10代鹿児島市医師会会長として、当時の多くの難題を冷静な判断と、卓越した指導力で切り盛りされてきた歴史があったからだろうなと感じたところでした。また、私が会長として盆暮れのご挨拶に先生のクリニックへお伺いした時も、笑顔で応接室にお招きいただき、医師会病院や検査センターのことなど気にかけておられ、いつも建設的なご指導と叱咤激励をしていただきました。激務であった会長職を辞されても、顧問や会員としての視点から、常に医師会のことを考えていただいているのだと感銘をうけました。

ここ1年以上続くコロナ禍においてなかなか懇談会も開催できず、先生とお会いする機会が全くなかった状況で、本年4月突然の訃報を耳にしたときは、まさに医師会の「巨星逝く」でありますと、悲しみで胸が張り裂けんばかりの想いでした。先生からまだまだ多くを学びたいと思っておりましたが、お別れの時が訪れました。短い期間でしたが、今まで熱心にご指導いただき本当にありがとうございました。心より御冥福をお祈りいたします。

先生、本当にありがとうございました。

海江田健先生を偲んで

元職員 東 耕治

私は42年余勤務させていただいた鹿児島市医師会を令和3年3月末で退職することになり長年ご指導を賜りました海江田 健先生にご挨拶に伺いましたが、ご不在とのことでお会いすることができませんでした。それから2週間程経ちました4月13日医師会事務局から海江田先生がご逝去されたとのご連絡を受け、只々悲しい思いで胸が一杯になりました。

海江田先生は役員退任後も、折りに触れ温かい励ましの言葉をかけてくださいり、その度にやる気と勇気をいただきました。御礼の言葉を申し上げない今までのお別れとなり、大変申し訳なく存じております。

海江田先生との思い出は尽きませんが、思い出すままにその一端を振り返ってみたいと思います。

伊敷文化村

海江田先生は伊敷団地への登り口に診療所を開業され、私は千年団地に住居を構えており、先生は伊敷地区一帯を称して「伊敷文化村」と常々言っておられ、私にも村民としての自覚と誇りを持って行動するようにご指導をいただきました。何を持って「伊敷文化村」と称されていたかは、酒席の場で何度もお聞きしたような気はしましたが、全く記憶に残っておりません。蛇足ながら現上ノ町会長のルーツも「伊敷文化村」にあります。

万歳のポーズ

海江田先生は役員退任後は長年「顧問」の重責を擔っておられ、祝賀会等で万歳をお願いすることも度々ありました。海江田先生は万歳のポーズにはこだわりがあられ、手のひらを正面に向けて挙げるのは「お手上げ」で

あり、手のひらを内側に向けて挙げるのが「万歳」だと、いつも厳しくご指導をいただいておりました。

車中でのビデオ鑑賞

海江田先生が役員をされていた頃の九州内の出張は、目的地との間はバスを貸し切って集団で移動することが常でした。大分や長崎への出張は移動時間が長く、バス車中で鑑賞するレンタルビデオの選定も随行職員の大きな業務でした。海江田先生のお気に入りのビデオは、「極道の妻たち」と「釣りバカ日誌」だったと記憶しています。

平成5年8月6日水害

平成5年8月6日、集中豪雨に見舞われた日は理事会でした。私は、当時医師会館の3階にありました臨床検査センターで勤務しており、集配車両からの無線連絡で医師会館付近も浸水していることを知り慌てて1階に降りましたところ、すでに浸水が始まっていました。その後別館1階の夜間急病センター緊急時災害電話が鳴っていることに気付き受話器をとると市消防局からの医師派遣の要請でした。同センターも床上浸水の状態でスタッフは1人も出向できており、救急担当理事の海江田先生のご指示を仰ぎましたが、対応不可能と回答するようご指示をいただきました。翌日海江田先生の診療所の道路向いの山の斜面が崩壊して大変な危険な状況であったことを知りそのような状況の中で適切なご指示をいただいたことに頭の下がる思いがいたしました。

県医師会と県都の医師会

海江田先生は通算9期18年鹿児島市医師会の役員を務められ、平成16年3月退任されま

[「海江田 健先生を偲ぶ追悼文」特集]

した。私個人としては海江田先生の人格・力量から次は県医師会長に推される方だと思っておりましたが、別の役職に就かれました。昭和22年11月に新制医師会が設立されて以来鹿児島県においては、県都である鹿児島市医師会長経験者が鹿児島県医師会長を務められたことはありません。

海江田 健先生のご冥福を心よりお祈り申し上げますとともに、長年のご指導に深く感謝申し上げます。